1年次・シラバス

令和4年度 山形県立左沢高等学校 シラバス 1年次目次

P	科目名
15	現代の国語
16	言語文化
17	歴史総合
18	数学 I
19	科学と人間生活
20	体育
21	保健
22	音楽 I
23	美術 I
24	書道 I
25	英語コミュニケーション I
26	家庭総合
27	情報 I
28	産業社会と人間

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
国語	現代の国語	1	全系列	必履修		2
○使用教科書 □副教材等 △その他			学習目標			
○『新 現代の国語』（三省堂） □ 学習課題ノート □ 便覧 □ 漢字テキスト △ 国語辞典			言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現することができる。			

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	・ 定期考査	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	40	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・ 定期考査 ・ 振り返りシート ・ 言語活動（発表等）	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	・ 振り返りシート ・ 言語活動（グループワーク等）	100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動	
1 学期	中間 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入門 言葉と声で表そう 一 わかり合うために ・ 伝え合い（コミュニケーション）に大事なことを考える ・ 「届く言葉、届かない言葉」 ・ 「わかりあえないことから」 ・ 「聞く力」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や図表をもとに考え、理解したことや解釈したことを発表する活動 ・ 情報を取り出したり、情報と情報を関連づけて解釈したりして、考えを深める活動 ・ 異なる形式で書かれた複数の文章を読む活動
	期末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> 一 確かな情報を伝えるために ・ 情報はつくられる ・ 「ひとまず、信じない」 ・ 情報を編集し、的確に発表する 三 情報を生かすために ・ 「人が死なない防災」 ・ 「減災学をつくる」 ・ 評価した情報をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の編集について考える活動 ・ 筆者の考えを知り、自分の考えとの共通点を探る活動 ・ 自分の考えをスピーチする活動 ・ 集めた情報をまとめる活動 ・ 資料を批評する活動 ・ 報告書にまとめる活動
2 学期	中間 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> 四 よりよい読み手になるために ・ 「読むことのレッスン」 ・ 「水の東西」 ・ 「コインは円形か」 五 場に応じて伝えるために ・ 「中身当てクイズ」 ・ 読み比べる一海ガメの無念 ・ 構成や展開を意識して発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現の仕方の特徴や課題などを明らかにする活動 ・ 内容や形式について批評する活動 ・ 論理の展開を分析して捉える活動 ・ 自分の考えを論理的に表現する活動 ・ 集めた情報を資料にまとめる活動 ・ 聴衆に対して発表する活動
	期末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> 六 説得力を高めるために ・ 「折々のことば」 ・ 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」 ・ 情報を整理して推薦する 七 考えを共有していくために ・ 「檻の中の“街”」 ・ 「小さな哲学者」 ・ 多様な意見に触れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引用することの効果を考える活動 ・ 主張と根拠の関係や引用することの効果を批評する活動 ・ 読み手が必要とする情報に応じて紹介文などを書く活動 ・ 自分の考えについてまとめる活動 ・ 本文や資料を引用しながら、自分の意見を論述する活動 ・ 討論を行う活動
3 学期	年度末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> 八 よりよい書き手になるために ・ 「ありのままの世界は見えない」 ・ 「ものごとことば」 ・ 情報を活用して説得的に書く ・ 書いた文章を批判し合う ・ 言葉で世界を豊かに 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例と主張との関係を確認する活動 ・ 本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動 ・ 相互批評し、よりよい書き方を認識する活動 ・ 絵から読み取ったことをタイトルやコピーにし、交流する活動

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
国語	言語文化	1	全系列	必履修		2
○使用教科書 □副教材等 △その他			学習目標			
○『新 言語文化』（三省堂） □学習課題ノート □漢字テキスト □便覧 △国語辞典、古語辞典			言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することができる。			

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	・定期考査	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	40	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・定期考査 ・振り返りシート ・言語活動（発表等）	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	・振り返りシート ・言語活動（グループワーク等）	100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	中間 考 査 ま で	入門 言葉を旅する ・随筆「千年の時が与えてくれる安堵」 一 読書は生きる力 ・古文「枕草子」 ・漢文「故事二編」 ・小説「ゴール」 ・古典について考えたことを発表する。 ・歴史的仮名遣いを意識して音読する。 ・古語辞典の使い方を身に付ける。 ・身の回りの物事について、表現する。 ・様々な物事と故事を結びつけ、話し合う。 ・作品についての感想や考えを交流する。
	期末 考 査 ま で	・書くこと フォトレポートに表す 二 物語は「無限に展開する」 ・古文「沙石集」 ・漢文「説苑」 ・小説「羅生門」 ・調べたことや考えたことをフォトレポートに表す。 ・人物設定を理解し、話し合う。 ・漢文訓読の基本ルールを理解して身に付ける。 ・人物の言動を整理し、紹介し合う。 ・人物の心情や考え方の変化について話し合う。
2 学 期	中間 考 査 ま で	・書くこと 短歌・俳句に表す 三 言葉は時空をかけめぐる ・古文「伊勢物語」 ・古文・韻文「和歌十首」「短歌七首」・随筆「野焼」 ・感じたことや発見したことを短歌や俳句に表す。 ・古典文法の用言や和歌の修辞について理解する。 ・文章と絵画を結びつけて捉え、表現する。 ・和歌・短歌から物語を作る。 ・一つの出来事について考え、話し合う。
	期末 考 査 ま で	四 人の心は万華鏡 ・小説「オムライス」 ・漢文「十八史略」・古文「平家物語」 ・書くこと 詩に表す 五 共感海を越える ・漢文「漢詩四編」・小説「待ち伏せ」 ・別の語り手を設定し物語を作る。 ・比喩や暗示を分析し、話し合う。 ・人物の心情表現や言語表現を分析し、意見交換する。 ・古典文法の助詞・助動詞について理解する。 ・漢詩の形式について理解する。 ・感じたことや思ったことを詩に表す。 ・感じたことや考えたことを表現する。
3 学 期	年度末 考 査 ま で	・インタビュー「人間を描きたい」 六 文学は主張する ・古文「徒然草」 ・小説「なめとこ山の熊」 ・漢文「論語八章」 ・書くこと 随筆に表す ・言語文化の継承の意義を考え、話し合う。 ・複数の文章を比較し、文章にまとめる。 ・物語を吟味し、多様な解釈を交流する。 ・批評を吟味し、文章に表現する。 ・思ったことや考えたことを随筆に表す。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
地理歴史	歴史総合	1	全系列	必履修		3
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
○「明解 歴史総合」(帝国書院) □「明解 歴史総合図説シンフォニア」(帝国書院) △ 授業内容に合わせ、資料・振り返りシート・小テスト等を配付します		社会のできごとに対して歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に対応できる公民としての資質を養う。				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	1: 歴史上の基本的かつ重要なできごと・人物・用語等を知ることができている。 2: 歴史の資料(史料)・情報を適切に選択し、的確に読み取ることができている。	・定期考査 ・小テスト ・提出物	100点満点 (ABC)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	40	1: 学習活動の中で的確な疑問・課題を自ら見いだすことができる。 2: 疑問や課題に関して調査・探究した内容・成果をわかりやすくまとめ、表現できる。	・定期考査 ・提出物 ・振り返りシート ・発表、等	100点満点 (ABC)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	1: 授業や小テストの取り組み状況、課題の提出状況などから、学習に対して主体的に取り組む「粘り強さ」が認められる。 2: 振り返りシートなどから、自らの学習について改善しようとする「自己調整力」が認められる。	1「粘り強さ」60% 2「自己調整力」40%	100点満点 (ABC)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	中間 考査 まで	1部 「歴史の扉」 2部 「近代化と私たち」 序章～1章 ・歴史と私たち(私たちの身近なものの中にある「歴史」を見いだし考える) ・歴史の特質と資料(資料の取り扱い、「歴史叙述」とは何か?) ・近代化への問い(6つのキーワードで考える「近代化とは何か?」) ・江戸時代の日本と結びつく世界 (いわゆる「鎖国」の虚実を「世界の中で」考える)
	期末 考査 まで	2部 「近代化と私たち」 2章～5章 ・欧米諸国における近代化(近代化の本質を「人権」と「経済の発展」から考える) ・近代化の進展と国民国家形成(個人の権利と「国」「国家」の相関を考える) ・アジア諸国の動揺と日本の開国(「幕末維新」を「世界の流れ」に位置づける) ・近代化が進む日本と東アジア(「近代化」と「対外進出・戦争」の関係を考える)
2 学 期	中間 考査 まで	3部 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」 序章～第2章 ・国際秩序の変化や大衆化への問い(「大衆」「民衆」「市民」の異同を考える) ・第一世界大戦と日本の対応 (今の「戦争」のイメージを確立した初の「世界大戦」) ・国際協調と大衆社会の広がり(それらを「支えた」のは何だったのか?)
	期末 考査 まで	3部 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」 3章～4章 ・日本の行方と第二次世界大戦 (「話し合い」で「大戦」は避けられたのか、を考える) ・再発する世界と日本 (第2次世界大戦とその結果が世界と日本に与えた影響を考える)
3 学 期	年度末 考査 まで	4部 「グローバル化と私たち」 序章～3章 ・グローバル化への問い ・冷戦で揺れる世界と日本 ・多極化する世界 ・グローバル化の中の世界と日本 (「グローバル化」の功罪、「大国」と「小国」、国際連合の理想と現実・・・などを考えた上で「これからの」世界がどうなるのか、その中で日本の地位がどうなっていくのか、を考える)

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
数学	数学 I	1	全系列	必履修		4
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
○「最新数学 I」(数研出版) □「パラレルノート数学 I」(数研出版) □「練習ドリル数学 I」(数研出版) △学習シート(個人・グループ) △振り返りシート, 小テスト		<ul style="list-style-type: none"> ・整式の扱いを理解し、展開・因数分解が早く正確にできる。 ・2次関数の平方完成ができ、グラフが書ける。 ・グラフを利用し、関数の値の変化や方程式・不等式の解を求められる。 ・三角比の意味を理解し、正弦定理・余弦定理を具体的な事象に活用できる。 ・データ分析の基礎的な手法を理解し、適切に分析・考察できる。 				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	50	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と式」「二次関数」「図形と計量」「データの分析」の基本的な概念、定理、用語を理解しているか。 ・問題を読み取って状況を理解し、表現・処理する技能を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題考査 ・小テスト ・提出物 	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	25	<ul style="list-style-type: none"> ・数や式を目的に応じて変形し、利用できたか。 ・図形について、論理的に考察し表現できたか。 ・関数の式とグラフを相互に関連付けて考察できたか。 ・データを読み取り、適切に分析・考察できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題考査 ・学習シート 	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	25	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く考え、数学的に判断しようと取り組んだか。 ・数学のよさを認識し、数学を活用する態度を身に付けたか。 ・自己を振り返り、改善しようと努力したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出物 ・学習シート ・振り返りシート ・授業態度 	100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	中間 考 査 ま で 1. 数と式 (1) 数と式 (2) 実数	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の扱いやルールを学び、定着するまで反復練習を行う。 ・目的に応じた式変形の仕方を身に付ける。 ・数を実数まで拡張する意義を知り、無理数の四則計算ができるようになる。
	期 末 考 査 ま で (3) 1次不等式 2. 集合と命題 (1) 集合 (2) 命題	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式の性質を理解し、1次不等式の解を求めることができる。 ・1次不等式の範囲を図示することができる。 ・集合と命題に関する基本的な概念を学び、集合を用いて命題の真偽を判断することができる。
2 学 期	中間 考 査 ま で 3. 2次関数 (1) 2次関数とグラフ (2) ①2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の平方完成の手順を身に付け、頂点とy切片をもとにグラフが書ける。 ・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、最大値や最小値を求められる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解する。
	期 末 考 査 ま で ②2次不等式 4. 図形と計量 (1) 三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・2次不等式と2次関数のグラフとの関係について理解し、グラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 ・三角比の意味と、相互関係について理解する。 ・三角比を鈍角まで拡張し、鈍角の三角比の値を求めることができる。
3 学 期	年 度 末 考 査 ま で (2) 正弦定理・余弦定理 5. データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理や余弦定理、面積の公式を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさ、面積などを求めることができる。 ・データ分析に関する基礎的な用語とその意味、使い方を理解し、コンピュータを用いてデータの整理や統計量を求める。 ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性を考察する方法を知る。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
理科	科学と人間生活	1	全系列	必履修		2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
○「科学と人間生活」(東京書籍) □「ニューサポート科学と人間生活」		自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、観察、実験などを通して科学的に探究する力を養う。また自然の事物・事象に対して科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	・自然や科学技術と人間生活との関わりについて、理解するのに必要な知識を身に付けている。 ・観察、実験などの基本操作や情報の整理など科学的に探究するため技能を身に付けている。	・定期考査 ・提出物	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3 2・1)
②思考・判断・表現	40	・自然や科学技術と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現したり、多面的発展的に考えることができる。 ・グループ学習などを通して他者の考えを受け入れながら、自分の思考を深め、適切に判断し、表現している。	・定期考査 ・学習シート ・グループ学習 ・発表	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	・自然や科学技術と人間生活の関わりについて関心や探究心を持ち、科学的に判断しようと取り組んでいる。 ・グループワークや発表を通して、自己の生活や学習を振り返り、調整することができる。	・学習シート ・振り返りシート ・レポート	100点満点 (A B C)		

学期		単元	学習内容・学習活動
1 学期	中間 考査 まで	*1～4は(1)または(2)のいずれかを選択。	(1)微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて考える。 (2)ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて考える。
	期末 考査 まで	1. 生命の科学 (1)微生物とその利用 (2)ヒトの生命現象	
2 学期	中間 考査 まで	2. 物質の科学 (1)材料とその再利用 (2)衣料と食品	(1)身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び再利用について、日常生活と関連付けて考える。 (2)衣料品と食品に関する観察、実験などを行い、身近な衣料材料の性質や用途、食品の性質について、日常生活と関連付けて考える。
	期末 考査 まで	3. 光や熱の科学 (1)光の性質とその利用 (2)熱の性質とその利用	(1)光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて考える。 (2)熱に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて考える。
3 学期	年度末 考査 まで	4. 宇宙や地球の科学 (1)太陽と地球 (2)自然景観と自然災害	(1)天体に関する観察、実験などを行い、太陽など身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて考える。 (2)自然景観と災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて考える。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
保健体育	体育	1	全系列	必履修	一名	3
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
○「現代高等保健体育」(大修館書店) □「アクティブスポーツ2022総合版」(大修館書店)		①運動について理解し、運動の合理的な実践ができるようにする。 ②生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。 ③体力を向上させる。				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	・技術の名称や行い方、試合の行い方について、学習した具体例をあげている。 ・その種目に応じた攻防を展開するための役割に応じた安定した用具の操作と連携した動きができる。 ・自己に適した技で演技したりペースを維持したりすることができる。	・実技試験 ・筆記試験(体育理論) ・観察 ・単元シート	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	30	・作戦などの話し合いの場面で合意を形成するため適切なかかわり方を見つけている。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。	・観察 ・単元シート	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	30	・学習に意欲的に取り組もうとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。 ・お互いに助け合い教え合おうとしている。	・観察 ・単元シート	100点満点 (A B C)		

学期	単元	学習内容・学習活動
1学期 期末 考査 まで	1 体づくり運動(通年) 2 体育理論(通年6回) 3 ラジオ体操第二 4 スポーツテスト 5 選択授業① (1) 球技Ⅰネット型 (バドミントン、卓球) (2) 武道(柔道)	・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通して、体を使う楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を図る。 ・体育理論では運動・スポーツの文化的特性や特徴について理解できるようにする。 ・ラジオ体操では第二運動を覚え、試験を実施し体育授業開始時の準備運動として継続させる。 ・スポーツテストを実施し、自分の体力の現状を把握することで体力の向上につなげる。
2学期 期末 考査 まで	6 選択授業② (1) 陸上競技 (競走、跳躍、投てき) (2) ダンス (創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス) 7 選択授業③ (1) 球技Ⅱネット型・ベースボール型 (バレーボール、ソフトボール) (2) 器械運動 (マット、平均台、跳び箱)	・選択授業①では球技Ⅰ、武道から1種目を選び、基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合ができるようにする。 ・選択授業②では陸上競技、ダンスから1種目選び取り組む。陸上競技では記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わいペースの変化等に対応して走れるようにする。ダンスでは、全身を使い、仲間と対応して踊ることができるようにする。 ・選択授業③では球技Ⅱ、器械運動から1種目を選び、基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合をしたり演技したりできるようにする。
3学期 年度末 考査 まで	8 選択授業④ (1) 球技Ⅲゴール型 (バスケットボール、フットサル)	・選択授業④では球技Ⅲから1種目を選び基本的技能を習得しながら、現状の能力で試合ができるようにする。 ・球技においては勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間との連携したゲームを楽しめるようにする。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
保健体育	保健	1	全系列	必履修	一名	1
○使用教科書 □副教材等 △その他			学習目標			
○「現代高等保健体育」(大修館書店) □「現代高等保健体育ノート」(大修館書店)			①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	50	・健康、安全について課題解決に役立つ基礎的な事項をあげている。 ・健康の保持増進には個人の力だけでなく、環境や社会の制度、活動などが深く関わっていることを理解している。	・定期考査 ・観察 ・ノート	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	30	・健康、安全に関する課題解決を目指し、考え、判断し、表わすことができる。 ・健康づくりに関する情報から課題を発見し、持続可能な社会実現への理解を深め思考・判断するとともにそれらを表現している。	・定期考査 ・観察 ・ノート	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	・健康、安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ・自他の健康の保持増進や健康を支える環境づくりについて、課題を調べようとしたり、仲間との協力や発信のための学習に意欲的に取り組もうとしている。	・観察 ・ノート	100点満点 (A B C)		

学期		単元	学習内容・学習活動
1 学期	期末 考査 まで	1 現代社会と健康 イ 現代の感染症とその予防 01 現代の感染症 (コロナ含む) 02 感染症の予防 03 性感染症・エイズとその予防 2 安全な社会生活 ア 安全な社会づくり 04 事故の現状と発生要因 05 安全な社会の形成 06 交通における安全	・現代の感染症とその予防においては、その発生や流行には時代や地域によって違いがみられることを理解する。その予防には個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。 ・安全な社会づくりにおいては環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解する。交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運動や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わる事を理解する。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解する。
2 学期	期末 考査 まで	1 現代社会と健康 ア 健康の考え方 07 健康の考え方と成り立ち 08 私たちの健康のすがた 09 健康と意思決定・行動選択 10 健康に関する環境づくり ウ 生活習慣病などの予防と回復 11 生活習慣病の予防と回復 12 がんの原因と予防 13 がんの治療と回復 14 運動と健康 15 食事と健康 16 休養・睡眠と健康 エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 17 喫煙と健康 18 飲酒と健康 19 薬物乱用と健康	・健康の考え方においては国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上・健康の考え方においては国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解する。健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解する。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解する。 ・生活習慣病の予防と回復においては健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見および社会的な対策が必要であることを理解する。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康においては喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になることを理解する。薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解する。対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解する。
3 学期	年度末 考査 まで	オ 精神疾患の予防と回復 20 精神疾患の特徴 21 精神疾患の予防 22 精神疾患からの回復 イ 応急手当 23 応急手当の意義とその基本 24 心肺蘇生法 25 日常的な応急手当	・精神疾患の予防と回復においては、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを理解する。疾病の早期発見および社会的な対策が必要であることを理解する。 ・応急手当においては適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減できることを理解する。応急手当には、正しい手順や方法があることを理解し、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解する。心肺蘇生法などの応急手当を適切にできるようにする。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
芸術	音楽 I	1	全系列	選択必履修	22	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
○MOUSA 1 △授業内容に合わせ、プリント等を配布します。		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	30	1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 2 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付け、歌唱・器楽・創作で表している。	・筆記または実技試験 ・学習プリント	100点満点 (ABC)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	30	1 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができる。 2 どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながら良さや美しさを聴いたりしている。	・筆記または実技試験 ・学習プリント	100点満点 (ABC)		
③主体的に学習に取り組む態度	40	1 音や音楽、音楽文化を豊かに関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・普通の授業態度や取り組み	100点満点 (ABC)		

学期	単元	学習内容・学習活動	
1 学期	中間 調査 まで	1 楽譜の基礎学習 (表現) 2 歌唱の楽しみ I (表現・鑑賞)	・楽譜の基礎・リズムの基礎・音楽を形づくっている要素について ・心の歌 ・ポピュラーソング
	期末 調査 まで	3 日本の伝統音楽に親しもう (表現・鑑賞)	・和楽器 (箏)
2 学期	中間 調査 まで	4 世界の音楽に親しもう (表現・鑑賞)	・諸民族の音楽 ・外国の歌曲 ・リコーダー
	期末 調査 まで	5 歌唱の楽しみ II (表現・鑑賞)	・日本の歌曲
3 学期	年度末 調査 まで	6 リズムを楽しもう (表現・鑑賞)	・リズム創作 ・リズムアンサンブル
		7 ギターに挑戦 (表現)	・メロディ奏

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
芸術	美術I	1	全系列	選択必履修	25	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
○「高校生の美術1」（日本文教出版） △材料費等で7,500円集金します。授業内容に合わせ、資料、振り返りシート、小テスト等を配布します。		美術の幅広い創造的な活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	20	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ○創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	・提出物（課題） ・小テスト	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	50	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・提出物（課題） ・発表等	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	30	○美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	・制作計画表 ・振り返りシート	100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	1 オリエンテーション 2 身近のものを描く～鉛筆デッサン	・小中学校での図画工作、美術の学習を振り返り、自分の心の中を見つめたり、気付かなかった自分の考えに気付いたりしながら「美術I」の学習のイメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。 ・身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞するとともに、身近なものの特徴や美しさなどの全体のイメージなどを捉え、線の強弱や描画材の特性を生かして表す。
	3 想像を形に	・想像や空想したイメージなどを基に、形態や色彩、配置、組み合わせなどの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、具体物や抽象的なものの組み合わせ、構図や色彩などの効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして、空想や夢などから心の中の世界を表す。
2 学 期	4 油彩画を描く	・モチーフの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞するとともに、全体のイメージなどを捉え、線の強弱や絵具などの特性を生かして表す。 ・油絵具の特性や技法を学び、表現に役立てる。
	5 彫って表す	・対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、特徴的な形の面白さをもつ対象を選び、量感、バランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、生命感や存在感を感じ取り、作品のイメージに合った質感の表現を工夫して、材料の特性を生かして表現する。
3 学 期	6 漫画の表現	・場面のイメージ、感情や動き、時間の表現などを基に、コマ割りや構図、背景などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞するとともに、効果線や擬声語などの効果、全体のイメージや作風などを捉え、ペンや筆などの特性を生かして、漫画を表現する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
芸術 I	書道 I	1	全系列	選択必履修	最大20名 最少1名	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
○書道 I (東京書籍) △ペン字の基礎学習 (教育図書)		書写能力の向上を図りながら、古典臨書に重きを置き、書表現の多様性を理解する。書を通して感性を高め書の文化に親しむ心情を育む。				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	30	古典の特徴を理解し、書風に即した用筆・運筆ができる。	清書提出 小テスト	100点満点 (ABC)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	30	書写から脱却し、書表現を目指しながら意図的に作品づくりができる。	作品制作カード	100点満点 (ABC)		
③主体的に学習に取り組む態度	40	技術的な向上心を持ちながら、添削指導を積極的にうけ、より完成度の高い作品を書こうとする意欲。	自己評価カード	100点満点 (ABC)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学 期	中間 考 査 ま で	オリエンテーション 漢字の書 (唐時代の楷書) 文房四宝・楷書の基本点画・行書の基本点画 古典臨書 (九成宮禮泉銘・孔子廟堂碑・雁塔聖教序・自書告身・牛橛造像記)
	期 末 考 査 ま で	篆刻 漢字仮名交じりの書① 直接法による印作り クリアファイルに書く (創作)
2 学 期	中間 考 査 ま で	行書の表現 蘭亭序の臨書 (半紙六字書き) 争座位文稿・風信帖
	期 末 考 査 ま で	隷書の表現 篆書の表現 隷書 (曾全碑) 篆書 (泰山刻石)
3 学 期	年 度 末 考 査 ま で	仮名の表現 漢字仮名交じりの書② 仮名の成立について・いろはにほへと・・・古筆の臨書 (蓬來切) 好きな言葉を表現する。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
外国語	英語コミュニケーション I	1	全系列	必履修		4
○使用教科書 □副教材等 △その他			学習目標			
○「All Aboard! English Communication I」(東京書籍) □「All Aboard! English Communication I WORKBOOK」(東京書籍) △授業内容に合わせワークシート等を配布します			英語の特徴やきまり、背景にある文化などについての理解を深めるとともに、目的や場面、状況などに応じて、英語を適切に活用できる能力を身に付け、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	英語の音声や語句、文構造、文法事項、背景にある文化などの基礎的な学習内容の理解を深めることができる。	・定期考査 ・パフォーマンステスト	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	40	日常的话题や社会的な話題について情報や考えなどの概要や要点を捉えたり論理性に注意して伝えたりすることができる。	・定期考査 ・パフォーマンステスト	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	授業の取り組み状況、課題の提出状況などから、学習に対して主体的に取り組む「粘り強さ」と、振り返りシートなどから、自らの学習を調整しようとする「自己調整」が認められる。	・提出物 ・振り返りシート	100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学期	中間考査まで	Warm-Up 1 Warm-Up 2 Warm-Up 3 Pre-Lesson 1 Pre-Lesson 2 アルファベット 教室で使う表現 辞書の使い方/疑問詞 My Name Is Ito Neko オレの名前は伊藤ネコだ be動詞 I like Junk Food! オレはジャンクフードが好きだ! 一般動詞
	期末考査まで	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Breakfast around the World 私の朝ごはん 過去形 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物 進行形 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車 助動詞
2 学期	中間考査まで	Lesson 4 Extra Target 1 Lesson 5 Reading 1 Extra Target 2 A Miracle Mirror 夢のような絶景 to不定詞 接続詞 Learning From the Sea 長浜高校水族館部 動名詞 Short Stories in English 知覚動詞
	期末考査まで	Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師 受け身 A Diary of Hope アンネ・フランク 比較表現 A Door to a New Life ロボットカフェ 現在完了形
3 学期	年度末考査まで	Lesson 9 Lesson 10 Reading 2 Extra Target 3 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る 名詞を後ろから修飾する分詞 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物 関係代名詞 The Wizard of Oz 仮定法過去

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
家庭	家庭総合	1	全系列	必履修		2
○使用教科書 □副教材等 △その他			学習目標			
○「家庭総合 自立・共生・創造」(東京書籍) □「家庭総合学習ノート」(東京書籍) □「ニュービジュアル家庭科」(実教出版) △教材・実習費 2200円			1. 家庭や生活の営みを人の一生のかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のあり方、子どもと高齢者の生活と福祉について理解する。 2. 衣食住や消費生活・環境など基礎的な知識と技能を身につける。 3. 生活課題を主体的に解決する力と持続可能な生活を営む実践的態度を養う。			

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	・単元ごとに基本的な語句や内容を理解できる。 ・資料や図表を的確に読み取り、まとめることができる。 ・被服製作に関する基本的な技能を身につける。	・定期考査 ・提出物 ・作品	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	40	・グループ学習の中で自己の役割を果たし話し合いに参加し発表することができる。 ・調査や調べ学習を通して課題を見出し適切にまとめることができる。また、解決策を考える力を身につける。 ・作品を完成する。	・定期考査 ・提出物 ・作品 ・グループ学習 ・発表	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	・課題への取り組み ・授業中の意見交換や発表を通して、自己の学習や生活を調整しようとしている。	・提出物 ・自己評価	100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学期	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会 第4章 超高齢化社会を共に生きる 1 超高齢大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢期の自立を考える 4 これからの超高齢化社会	・家庭総合を学ぶにあたって ・発達段階とその課題 青年期の課題 5年後10年後の自分を考える。 ・生涯を見通し、人の一生について考える。 ・家族・世帯について 家族に関する法律 ・職業労働と家事労働 ・超高齢化社会の現状 ・高齢期の心身の特徴と生活課題 ・介護について ・ホームプロジェクトについて
2 学期	第5章 共に生き共に考える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる 第7章 衣生活をつくる 被服製作 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服を作る	・社会保障制度 ・共生社会 ・被服製作 ・被服の機能 ・被服計画 被服の表示 h 被服材料・性能 ・被服の手入れ ・被服構成 採寸
3 学期	5 衣生活の文化と智恵 6 これからの衣生活 第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と智恵 4 これからの住生活	・生活文化と被服 ・被服の生産・消費・再資源化 ・住居の機能 住空間の構成 住居の計画 ・住居の防災 健康な住生活 ・気候風土と住居 伝統的な日本の住居

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
情報	情報 I	1	全系列	必履修	40	2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
情報 I (日本文教出版)		ICT(情報コミュニケーション技術)を活用し、情報を収集、処理、発信するための基礎的な知識と技能を習得する。また、情報社会の仕組みを知り、そのメリット・デメリットを考え、情報社会で生きる姿を学ぶ。				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	40	1. 情報技術(IT:各種端末や通信技術)の仕組みを理解し、効果的に活用する力を身につけている。 2. 情報社会を生きるための基礎的な知識と技能を身につけている。	・定期考査 ・レポート	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	40	1. 情報社会の中で、自分の権利を守ると共に、他者の権利を尊重した言動のあり方を考え、行動することができる。 2. 他者の思考を受け入れながら、協同して課題に取り組み、自己を表現することができる。	・定期考査 ・レポート	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	20	1. 自分の学びをふりかえり、よりよい学びにつなげることができる。 2. 情報社会の一員として、情報社会に主体的に参画している。	・ふりかえりシート ・レポート等	100点満点 (A B C)		

学 期	単 元	学習内容・学習活動
1 学期	1. メディアとコミュニケーション 2. アルゴリズムとプログラミング	・スマホは、オンラインの一番身近な入り口である。スマホを有効に利用する上での必要な知識と態度について考える。 ・プログラミング思考に必要な、順次、分岐、くり返し処理について学ぶ。
	3. 情報通信ネットワークのしくみ	・オンラインでの情報検索演習を通して、効率よく情報を検索する方法を考える。また、オンラインにある危険や犯罪を知り、それらから自分を守るしくみや考え方を学ぶ。
2 学期	4. モデル化とシュミレーション 5. 情報デザイン	・モデル化した現象を、アルゴリズムを用いてシュミレートし、モデル化の正誤を判断することで、現象を予測して行動することを学ぶ。 ・プレゼンテーションを体験し、情報を効果的に・効率よく伝えるための、スライドのデザインや、発表のしかたを考える。
	6. データの活用	・表計算の基本技術を習得する。 ・世の中にあふれる数字・グラフを正しく評価できるようになる、また、数字・グラフを効果的に利用する方法を考える。
3 学期	7. 情報社会の問題解決	・プレゼンテーションというメディアの特性を考え、その特性を活かした情報の伝え方を習得する。 ・情報社会を生きるための基礎的な知識を学ぶ。

教科名	科目名	年次	系列等	履修区分	履修上限人数	単位数
総合	産業社会と人間	1	全系列	共通履修科目		2
○使用教科書 □副教材等 △その他		学習目標				
△授業内容に合わせて、資料やワークシート・振り返りシートを配布します		1 自分を知る…学校や社会で自分自身を生かすためには自己理解が重要であることを理解する 2 社会を知る…就業体験等を通して、勤労観・職業観を養う 3 自分と社会をつなぐ…自分が希望する職業を理解するとともに、社会における在り方や生き方を認識し、よりよい社会を築くために主体的に動く意思や態度を育成する				

評価の観点	各観点の比率	評価の趣旨	評価方法	評価の通知		
				1, 2学期末、年度末		
				観点別	総合評価	評定
①知識・技能	30	1：進路や選択科目について正しい理解ができています。 2：発表資料作成やその他の場面において、情報機器を有効に利用できている。 3：ソーシャルスキルを身に付け、周囲と円滑に共同作業ができています。	・振り返りシート ・発表 ・提出物	100点満点 (A B C)	100点満点	(5・4・3・2・1)
②思考・判断・表現	30	1：資料やワークシートから適切な情報を読み取ったり、どう行動すればいいか理解できている。 2：調べたことや考えたことを文章で表現したり、情報機器を効果的に活用して発表している。	・振り返りシート ・発表 ・提出物	100点満点 (A B C)		
③主体的に学習に取り組む態度	40	1：授業、ワークシート作成、インタビュー、発表資料作成、発表などに対する取り組みはどうか。 2：周囲の人と積極的に意見交流や協同作業ができていますか。	・振り返りシート ・発表 ・提出物 ・グループワーク	100点満点 (A B C)		

学期	単元	学習内容・学習活動
1学期	自己理解 職業研究 カリキュラム研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・目標設定 ・S S T (ソーシャルスキルトレーニング) ・キャリアパスポートについて ・農業体験 ・科目選択理解 ・町歩き① ・職業レディネステスト ・インターンシップ事前学習
2学期	職業研究 自己理解 ライフプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・職業インタビュー ・インターンシップ ・S S T ・町歩き② ・ライフプラン作成 ・先輩からのメッセージ
3学期	職業研究 自己理解	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な大人と出会おう ・2年次探究発表会 ・進路体験を聞く会 ・S S T